

令和6年度 学校だより

あくのうら 2月

ホームページ www.nagasaki-city.ed.jp/akunoura-e/

令和7年1月31日

長崎市立飽浦小学校

発行 校長 松尾伸章

2月になります。新潟県育ちの仏文学者、堀口大学さんは、「太陽暦の作者は、雪国に親切だった。果てしなく思える（厳しい寒さに耐え忍ぶ）2月だけど、1年で最も短い日数で終われるから。」と書いています。

まだまだ寒さが残る2月ですが、我が家の裏手にある梅の木を眺めると、少しずつその花の色が付き始めています。梅の異称は「春告草（はるつげぐさ）」です。春はそこまで来ています。

2月を「光の春」「春どなり」と呼ぶように、それぞれの子供にも春が訪れる2月にしていきたいと考えています。

親愛園さんとの最後の交流

1月28日（火）に、次年度新1年生となる親愛園の園児さんたち7名が、飽浦小へ体験交流にやってきました。



まずは、現1年生と一緒に転がしドッジボールをしたり、「おむすびころりん」の音読劇をしてみせたり、生活科で準備したどんぐりゴマなどで一緒に遊んだりしました。後半は、来年度の6年生（現5年生）と一緒に鬼ごっこをしたり、クイズに答えながらの学校探検に連れて行ったりしました。最後は記念撮影もして、玄関でアーチをつくってお見送りをしていました。ほのぼのとした、心あたたまる時間でした。



この交流を通して、本校の1年生は1つ上の先輩として、5年生は飽浦小学校の次年度リーダーとして、しっかりと自覚をもつことができ、自分たちの成長を実感することができました。新1年生の園児さんたちにとっても、入学への喜びや楽しみなど、意欲を高めてくれたことと思います。次年度、本校への新1年生の入学予定者数は、現在のところ7名です。そのうち親愛園さんから4名が入学予定です。入学式が楽しみです。

親愛園さんは、飽浦小学校の母体となる大切な園です。

しかし、残念ながら、親愛園さんは今年度（今年3月まで）で閉園が決まっています。これまで100年程のそのすばらしい功績に畏敬の念を抱くとともに、今年度での閉園をたいへん寂しく思うところです。親愛園さん、長い間、たいへんおつかれさまでした。

親愛園さんと交流活動ができるのも今年度が最後でした。親愛園さんから新入生が来るのも次年度4月の入学式が最後ということになります。今後が心配です。



【2月の行事予定】

- 3日(月) 安全の日 4年社会科見学
- 4日(火) 研究授業(なのはな・たんぽぽ) スクールカウンセラー来校日
- 5日(水) 心の時間 入学説明会(14:15~15:30)
- 6日(木) チャレンジタイム(国語検定) クラブ活動(3年生見学)
- 7日(金) あくりゅうクラブ
- 10日(月) ピースデイ 研究授業(1年)※全学年5校時終了後下校
※丸尾中入学説明会 15:30~16:30(6年生保護者のみ)
- 11日(火) <建国記念の日>
- 12日(水) 縦割り活動(昼の活動)
- 13日(木) チャレンジタイム(運動) 集団下校
- 14日(金) 避難訓練(予告なし)
- 16日(日) (家庭の日)
- 18日(火) 環境ESD講座(6年;3・4校時)
- 19日(水) 授業参観・懇談会 学校保健委員会
- 20日(木) チャレンジタイム(算数検定)
- 21日(金) あくりゅうクラブ
- 23日(日) <天皇誕生日>
- 24日(月) <振替休日>
- 26日(水) 全校集会
- 27日(木) チャレンジタイム(国語検定) 委員会活動
- 28日(金) 午前中5時間給食後下校(6日まで)

ちょっとお知らせ、目標達成！

2学期から、チャレンジタイム(運動)の時間には、長縄の8の字跳びにチャレンジしています。毎回、クラスみんなで一致団結し、自分たちが決めた目標回数を超えようと頑張っており、取り組む子供たちの目が輝いています。1月30日(木)、どのクラスも目標達成、記録更新！



また、今年度は、全校みんなで6000冊以上の本を読もうと決めていました。1月30日の調べで、見事目標達成！みんなで6167冊。一人平均106冊の本を読んだことになります。様々な目標に向かってよく頑張るあくのうらっ子たちです。

《校長室の窓から》

人は、どのように言葉を獲得していくのか、様々な観点から研究が行われています。その中に、興味深い話がありました。

人は、表情(感情)と音を関連付けて言葉を獲得していくというのです。

初めて赤ちゃんが発する言葉の多くは、赤ちゃんがよく耳にする言葉で、その音を真似て発していると考えられることが多いようですが、実は、その音を発している人の表情を(感情)を全身で捉え、心地よい感情と体感した音を獲得しているというのです。

その証拠として、生き物の中で唯一人間の赤ちゃんだけが、単純化した表情マーク(例えばニコニコマーク)に反応するのだそうです。他の動物は、動きのあるもののみに反応しますが、人の赤ちゃんは、良い感情のマークには安心の表情となり、怒りの感情のマークには不安の表情となります。つまり、言葉を音として獲得しているのではなく、感情を表現するコミュニケーションのツールとして獲得しているのです。

LINE等のSNSトラブルが昨今増加、低年齢化してきています。連絡調整のような伝達機能としては大変便利なツールですが、そこにはその人の表情がありません。トラブルの原因はそこにあるのかもしれませんが。

人が言葉の意味を表情(感情)と関連付けて理解しているのであれば、顔を合わせて話すほかに、本意を伝える術はないように思います。